

平成24年度臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：顎口腔機能治療部
研究期間：平成23年4月～継続中
研究課題名：運動速度を指標とした構音機能の評価・治療法の開発
研究課題の概要及び成果： <p>適切な構音には、関連器官の力や持久力よりも速度が重要とされる。しかし、これまでは適切に評価されていなかったのが現状である。本研究では構音器官の運動速度を計測し、新しい構音障害の治療法を開発することを目的としている。</p> <p>その一環として、構音に重要である軟口蓋にスポットを当て、健常者を対象に発音時と嚥下時の軟口蓋運動の速度を計測した。</p> <p>方法は、頭部レントゲン造影を用いて、無意味音節「banpa」発音時の軟口蓋の最大運動速度を、軟口蓋下降時（ba-n）、挙上時（n-pa）に分けて求めた。加えて、唾液嚥下時の挙上速度、下降速度の最大値を求めた。</p> <p>健常者における発音時の軟口蓋の最大運動速度は、下降時：85.3（mm/sec）、挙上時：72.0（mm/sec）であった。一方、嚥下時は、下降時：35.6（mm/sec）挙上時：25.4（mm/sec）であり、発音時よりも小さい値を示した。</p> <p>本研究の結果から、発音時には嚥下時よりも早い軟口蓋運動が必要であることが示された。今後は、さらに被験者数を増やし、詳細を検討していく予定である。また、この結果を活かして、鼻咽腔閉鎖不全症の訓練法、治療法を開発していく予定である。</p>
上記概要・成果に関連する図表等